

## 第7章 出会い

毎日いろいろな人との出会いがあり別れがある。楽しい出会いを期待したい。

### マドンナさん

「おだわらシルバー大学」で講師をしていた事があつた。紙芝居やマジックのコースには、必修で「童謡を歌おう」の授業があつた。

学生は、小田原市内のほぼ五十八歳以上の人。熱心に出席すると卒業証書がもらえる。自分が学びたい学科以外に、教養として「歌う」「話す」「歴史」などがあつた。「歌う」は、紙芝居やマジックの合い間に、観客と一緒に歌うのに役に立つ。「話す」は、各地区の集会のリーダーとして司会などに役立つ。しかし、大勢の前で話すのは難しい。「歴史」は小田原の歴史、二宮尊徳についてなど。九十分のハードな授業について行けず退学する人もあり、卒業証書を手にすると感無量で泣いてしまう。「おだわらシルバー大学」の卒業生は、小田原市の超エリートということに

なりません。

ある年の授業で、「それでは『里の秋』を歌います。歌の本の二十ページを開いてください」と言うと、ほとんどの人の目が別の所を見ているのに気がついた。視線の先には、今まで見た事もない美しい女性がいた。鼻が高く、髪の毛は、ふさふさとカールして、耳にはイヤリングをし、模様の入った黒のタイツを履き、靴は紐で足首を結ぶタイプの黒いハイヒールだった。足を組んでいたで、ヒールがますます細く見えた。男性はもちろん女性も憧れのまなざしで美しい女性を見ていた。私は、この人を、ひそかに「マドンナさん」と呼ぶことにした。

マドンナさんは、勉強熱心で、自作の屏風に唱歌『ウミ』（トウミハ ヒロイナ、大キイナ）の歌詞を書いて来た。挿し絵も描いてあった。三番は「ウミニ オフネヲ ウカバシテ、」と書いたので、残念そうな顔になってしまった。私が、「今は「うかばせて」と歌いますが、当時は「ウカバシテ」と歌っていたので、間違いではありません」と言うと、「よかった」と微笑んだ。それが本当に可愛らしく、すてきでした。

それから何年か過ぎて、「おだわらシルバー大学」最後の年の打ち合わせが終わった時、雑談で教育委員会の人、「もう亡くなってしまうけれど、学生の中にマドンナさんと言う人がいて、化粧品を紹介してもらった事がある。美しい人でした」と言い出した。私は驚いた。人前で「マドンナさん」と言った事はなかったはずだったが、どこかでしゃべったのだろうか。「マドンナさんは亡くなったのですか?」と訊ねると、「マドンナさんの愛称の出所は、池田先生でしたか」という事になった。「はい」。

マドンナさんは亡くなり、「永遠のマドンナさん」になってしまった。私は、時々思い出しては、ポロリと涙する。もう一度会いたい人です。

## 白浜の人

私が主宰している「童謡を歌う会赤い鳥」に小田原市役所の職員だった人がいた。終の住処を探した結果、和歌山県西牟婁郡白浜町の老人介護施設に行く事にしたという。童謡の会員に退会のあいさつをして、私には「白浜は好い所です。私が先に行って下見をしておきます。先生も、ぜひ来てください」と言った。

その後、二、三回便りがあった。「童謡の会で習ったように、こちらで私が中心になって童謡の会をやっています。先生のようにはいきませんが、楽しく歌っています。人生の中で、今が一番好い時です」。

今日、NHKテレビの天気予報で白浜が映った。穏やかな町だ。あれから二十年以上が経った。歌の好きな白浜の人は、元気になっているでしょうか。歌って暮らしているでしょうか。会って話したいです。

## 岸 恵子さん

岸恵子さんがNHKテレビ『あさイチ』のプレミアムトークに出演し、孫について語った。「孫は、頭はとつてもいいんですのよ。でも、勉強はちつともしないのよ。もうすぐ中学生なのに勉強をする時期でしょ。『日本は戦争をしないからお金がある。だから、大勢のノーベル賞が出る』と申しますのよ」とサラリと言った。アナウンサーらは、まるで今の話を聞かなかつたかのように取りあわず、聞き流した。佐田啓二や池辺良の話、小説『わりなき恋』に集中した。

岸さんは、昭和二十年（一九四五年）五月の横浜大空襲で被災した。この体験が、その後の語りや執筆に影響をあたえている。

私は、自分の孫が小学六年生の時、同じ事が言えるように育てられるだろうかと思った。同じ戦争体験者の七十代から九十代の人はどう聞いたか。岸さんの二人の孫はスポーツマン、ハンサムでかわいい。自慢の孫に決まっている。「自慢話か」と、とらえてしまった人には感動は伝わらなかつただろう。テレビ出演で、一番言いたかつた事をサラリと言つてのけた岸さんに拍手だつた。「このような反戦の言い方もあるのか。すばらしい」と教えられた。岸さんは現在八十二歳、これからも活躍を期待したい。

平成二十七年九月十九日未明、歴代政権が禁じて来た集団的自衛権の行使を可能にする安全保障法が可決、成立した。自衛隊の海外活動が地球規模に広がり、戦後の安保政策は大きく転換する。これを受け、政府は自衛隊が武器使用できる状況や手順を決めた部隊行動基準（ROE）

の見直しに着手した。

夫がテレビを観ながら「日本も軍事費が増えるね。憲法を無視して戦争することが平和維持に必須だと考えているからだ」と言った。自衛隊が平時から米艦などを守る「武器等防衛」や、国連平和維持活動（PKO）での任務拡大を踏まえ、新たな（ROE）を策定すれば、軍事費が増えるのは当然です。私たちの税金を軍事費に使ってはいけません。

## カメラマン

出会ったのは年老いたカメラマンだった。「御殿場線の山北で鉄橋を渡る電車が撮れた。ラッキーだった」と青年のような騒ぎだった。

「北海道に行った時、路上で記念写真を二枚撮りました。一枚は、通りがかりの人をお願いして撮ってもらいました。もう一枚は、プロのカメラマンに撮ってもらいました。この人は、カレンダーに自分の写真を載せて北海道の自然を紹介する仕事をしている。帰宅して現像してみると、通りがかりの人が撮った写真は、普通の集合写真でした。しかし、プロのカメラマンの撮った写真は、白いガードレールが入っていて、遠近が美しい構図になっていました」と話したが、その年老いたカメラマンは聞いていなかった。私は良い仕事をしてほしかったので話したのだが、彼は、私が書いた童謡や唱歌の文に、写真を提供してくれた。また一緒に仕事をしたいと思っ

ます。

## 妖精クリオネ

厚中市立子ども科学館でクリオネの展示をしていた。クリオネを観るのははじめて。クリオネはギリシャ神話の登場人物にちなんで名づけられた。和名はハダカカメガイ。巻貝の仲間。成長すると貝殻がなくなる。体全体は透明で内臓だけが赤っぽく見える。肉食性で小さな動物などを食べる。泳ぐ姿から「流水の天使」「氷の妖精」とも呼ばれる。

展示されていたのは一匹だけだった。水温が高いと暑くて生きていけないので、展示の水槽は小さな冷蔵庫で水温は四度。子ども用に書かれていた説明がおもしろかった。「手にみえるが、じつは足。翼足（よくそく）といい、ひらひらさせて泳ぐ」「顔にみえるが、じつはお腹」「ツノにみえるけど、じつは触手（しょくしゅ）といい、中に口など内臓がある」。

「網走から来ました」と書いてある。網走市は北海道の北東部のオホーツク海に面した町。冬に海を白くそめる流水が有名。そこからやって来た。クリオネの水槽のわきでは、網走市の宣伝ビデオが上映されていた。パタパタ泳ぐ、かわいいクリオネを見ながら、網走刑務所の説明を聴くことになってしまった。私は吐きそうになった。頭に「クリオネⅡ網走刑務所」とインプットされた。このビデオを、子どもたちも観るのだろうか。子どもには刺激が強いのではないかと心配した。

帰宅して夫に話すと、「ポスターに沢山写っていたのなら、みんな死んでしまったのさ。生きものを飼育するのは大変だね」「網走刑務所は、今は博物館になっていて、中を観る事ができます。

網走刑務所を脱走するのは、脱走犯にとつて最も過酷で、そのようすも展示されています」と言った。夫は北海道で大学時代を過ごしているので北海道にくわしい。その夜、「網走刑務所の脱獄犯」と「笑うクリオネ」が出てきて、なかなか眠れなかった。

次の週、再びクリオネを観に行つた。おや？ なんだか元気がない。係りの人に、「先週観た時より元気がないようですが、弱っているのですか。大丈夫ですか」と訊ねた。すると、「寝ているんですよ。私たちも、時々死んだのかと驚く事があります。帰りがけに観ると、また元気に泳いでいたりします。去年は十四匹送られて来ましたが、今年は五匹で、ほかのは、すでにお亡くなりになりました」。「ああ、やっぱりそうでしたか。一匹だけなので、少ないと思ひました。よくわかりました。ありがとうございます」。網走市のビデオは、小さい音声になっていた。

### 宮城まり子さん

肢体不自由児の社会福祉施設「ねむの木学園」の園長、歌手で俳優の宮城まり子さんの話に感動した。

「障害を持った子は、健常者よりずっと時間が長いんです。「おかあさん」や「おはよう」が言えなかった子が、ある日「お」と言った。それには何年も、何十年もの時間がかかった。普通の子が、すぐできる事が、障害を持った子は、長い時間がかかる。そして、また長い年月が過ぎて「おかあさん」「おはよう」「おやすみ」次々言葉を覚え、歌が歌えるようになった子もいるし、

絵が描けるようになった子もいる。パソコンができるようになった子もいる。普通の何倍もの時間がかかった。しかし、その子は、その子の時間で生きて行けば、それでいい。障害は悲しい事ではない」と。このような考え方で宮城さんは障害のある子どもたちと接している。このような人が他にいるだろうか。宮城さんは、すばらしい人です。私は尊敬しています。

『手のひらを太陽に』を作曲した音楽家・いずみたくさんも、作詞をしたアンパンマンの漫画家・やなせたかしさんも、宮城さんのファンでした。いずみたくさんは『手のひらを太陽に』を作曲する時、「子ども向けの歌を作るつもりはなく、仲の良かった宮城まり子という大人の歌手を意識して作曲した」と言っている。

◆宮城まり子は、昭和四十三年（一九六八年）に日本初の肢体不自由児養護施設「ねむの木学園」を設立した。施設は、最初、静岡県小笠郡浜岡町（現・御前崎市）にあった。六月、現地を見に行くと、大きなネムノキがあり、ピンクの花を咲かせていた。七月、浜の見える砂丘のそばの小高い丘に用地を決定した。施設に附属してだれでも見学が可能な「ねむの木美術館」も建設した。美術館には子どもたちの絵を展示した。

宮城さんは、施設のすぐそばに浜岡原発がある事を心配していた。「何かあったら、子どもたちが危ない」と。平成九年（一九九七年）、「ねむの木村」として静岡県掛川市上垂木知山地区に移転した。「ねむの木」も美術館・どんぐりも開館した。「前の所より、少しはましかしら」と言っておられたのだが、海側から山側に移転しただけで、浜岡原発に近い事には変わりはない。「何かあった時」には、真っ先に危険区域となる所だ。



福島原発の事故の後、浜岡原発は運転が停止された。次に来るであろう東海沖地震の大津波に現在の防波堤が耐えられないと判明したことが、要因の一つだった。しかし、すぐに静岡県知事は再稼働要望の文書を国に提出した。日本に危険な原発はいらない。

## 百歳の人

私が主宰する童謡の会には、大正四年生まれの会員がいます。「杖は使わないのですか」と訊ねると、「娘が買ってくれて、少し使ったけれど、面倒なので今は使っていません」「今日は缶とビンの仕分けの日で、童謡の会があるから少し早めに切り上げて来た」「公民館へは、歩いて来ていたけれど、楽をしてバスで来るようになり、今は娘が車で送ってくれる。いつまで来れるかなあ。先生の顔が見たいから来るんだよ」。

ある日、童謡の会で『里ごころ』『ト笛や太鼓にさそわれて』を歌うと、突然、「運動会で踊った事がある」と言われた。みんなが話に耳を傾けた。理解のある童謡の会員です。まだまだ聞きたい事が沢山あります。

「何でも食べて、ほがらかに歌って生きている。くよくよしでもはじまらない。長生きの秘訣といつても、特別な事はしていない。いろいろな事に興味があつて、短歌の会にも参加している。ひとさまに見せられるような物じゃあない。好きでやっている」「父親は百五歳、母親は九十歳まで長生きをしたから、私も長生きで、しょうがないや。運命だね」「富山県の生まれで、第一

次世界大戦、第二次世界大戦の二つの戦争を経験している。関東大震災もあった。東京に嫁に行つて、それから夫が亡くなつたり、いろんなことがあつた。神奈川県足柄上郡山北町に疎開。三保ダムができたので村はダムの下に沈んだ。中井町に引越して、その後ずっと、ここに住んでいる。この辺じゃあ私のような年寄りには、いくらでもいる」。

◆「三保ダム」の名前は、最初「酒匂川ダム」の予定だったが、湖底に沈む旧三保村にちなみ「三保ダム」とした。ダムは昭和五十三年（一九七八年）に完成。以後、神奈川県の水がめとして重要な役割を担っている。ダムによって出来た人造湖は、所在地が丹沢山系にある事から「丹沢湖」と命名された。

平成二十四年九月、この会員の誕生日に合わせて、神奈川新聞の「かながわ人」のコーナーで紹介してもらえないかと秦野支局に連絡した。しかし、何の返事もなのまま時が過ぎ、十一月末になって、「情報をありがとうございます。どのようにアクセスしたらいいか、直接行く前に電話連絡したいと思います。住所が書いてありましたが、電話番号を教えてください」という留守電が入っていた。電話番号を教えると、その新聞記者から「ワツかりました」と、マスコミ関係者が好んで使う口調が返つて来た。十二月に入ると新聞は第四十六回衆議院議員総選挙一色となり、結局、新聞に載ることはなかった。

昔、私が主宰する童謡の会に母親が百歳という人がいた。「NHK『百歳バンザイ』に出たら」と言うと、「何かとりえが無いとダメよ」と言っていたのを思い出した。歌を元気に歌い続け、仲間に囲まれて楽しい人生を過ごしている百歳は、新聞で紹介する価値が無いのだろうか。私の

話を聞いた童謡の会の会長さんが、「私たちと、新聞記者の人とは考え方が違うのねえ」と言った。これが価値観の相違というのだろうか。

平成二十五年（二〇一三年）正月、新しい年が明けた。私の自慢の童謡の会員は、数えで九十九歳になった。昔風の「数え年」では、みんなが一斉に年を重ねた事になる。一月例会、花束と襟巻を贈り祝った。その場にいた会員全員が親孝行をした気分になった。いい気分です。リクエスタの『朝はどこから』や、『赤ちゃんのお耳』を歌った。楽しい歌い初めになりました。

長生きは、めでたいことです。末長く生きて、人生を楽しんでいただきたい。私は、この元氣な会員を目の当たりにして、「人の喜ぶことをして生きて行こう」と思った。夫が「悟りをひらきましたね」と言った。

『広報なかい』平成二十七年九月号には、「今年に入り、百歳の誕生日を迎えられた方は、五人となりました」と書いてあります。童謡の会全員に広報を回覧すると、「若々しいですね」「あやかりたいです」との声があがった。

## 茂木健一郎さん

人間の脳は、何歳になっても変わりうる。前向きに、挑戦する気持ちさえ忘れなければ、いつまでも若々しくいられる。脳は、新しい事を学習する事が好きである。新しいことに挑戦する

脳は、いつまでも若い。

家族や、友人たちと団らんの時を持つ。自分を支えてくれる人々と大いに絆を強めたい。家族との絆、友人たちとの語らい、自分とつながる人々の笑顔があつてこそ、新しい事に挑戦できる。人々の温かさが「挑戦する脳」を育む。大切な人の笑顔が、前向きに生きる勇気と、ふくよかな希望を与えてくれる。

「生きる勇気は笑顔から」（脳科学者・茂木健一郎の言葉）。

## マツモトキヨシさん

私は、マツモトキヨシさんに会ったことがある。西千葉駅から少女少女タンポ合唱団のコンサート会場までタクシーに乗った。乗車してから落ち着いて運転手さんの名前を見ると「松本清司」と書いてあつた。私は驚いて、「運転手さんは、マツモトキヨシさんですか？」と訊いた。すると、「気がつきましたか。孫が大きくなって、この名前に大喜びをしたんですよ。ほとんど人は気がつきません。お客さんはすごいですね」「薬局のマツモトキヨシ社長ではないですよね」「僕は、もともとは八百屋だったんです。大手のマーケットに押されて倒産しました。ウチでゴロゴロしていたら、かあちゃんが今まで配達で市内を回っていたんだからタクシーの運転手でもしたらって言うので、家にもいってもしようがないから始めたんです。運転は一日中座っているから疲れます。何の商売も大変です」「そうなんですか。薬局のマツモトキヨシは、自分の名前を付けて、

全国チェーンにしたアイディアは、すばらしいですね」そうだねえ。松本薬局だったら売れなかったですものねえ」。ひとしきりマツモトキヨシの話で盛り上がった。

少年少女タンポポ合唱団は、子どもの減少により、このコンサートを最後に解散しました。童謡『流れ星』を歌っているのは私が主宰している童謡の会だけとなりました。娘が千葉大学を卒業すると私は千葉に行く事がなくなりました。もう千葉のタクシーに乗る事はありません。

## 今どきの男

ある日、男にテレビ局のマイクが向けられた。「グアムに行つて来ました。青い空に青い海、最高でした。もう会社には行きたくないですね。ハハハハ」。私は娘さんが聞いているよと思った。娘にもマイクが向けられた。「楽しかった事を、学校に行つて、みんなに話したいです」。しつかりした娘だ。

ある日、男は仕事の打ち合わせに来た。しかし、ほとんど何も話さなかった。名刺をもらわなかったので名前がわからない。自己紹介もなかった。会議中、男は下を向いてクスクス笑ったり、うなずいたりしているだけで何も言わなかった。自分から話に入つて来る事はなかった。気が弱そうなので、この男は話の外に置いた。それで、もう一人の男との間で仕事の打ち合わせは終わった。何も話さなかった男が、一番ほつとしていた。男は、老人でもなく、中年でもなく、青年のようにも見えなかった。疲れているようでもなかった。いつまでも、この渋い白い男の存在が気

になった。

夫が、いつも言っている事を思い出していた。「仕事は、与えられた事を、こなすだけではだめで、それ以上の仕事をしなさい。そうすれば、自分も成長して行く」。男には、仕事が面白くなかったようだ。与えられた仕事は、能力が無いのでうまくこなす事ができなかった。できない仕事は苦しくてたまらなかつただろう。男にも感情があつた。給料は雀の涙ほどだ、いつか辞めてやると思つていた。仕事ができない男は、秋に社長から解雇された。冬になると会社自体が倒産した。

ある日、男は玄関に來た。一緒に來た男が彼を紹介した。「こちらが、今度の町議選に立候補する人です。よろしくお願いします」と。次にパンフレットを私に渡した。「この人の名前はそこに書いてあります。学歴や職歴もそこに書いてあります。公約もそこに書いてあります。読めばわかります。この辺は、ほとんど新しい家が建つて、だれが住んでいるのかわかりませんね。そこに住んでいた人は、どうなさいましたか」。紹介者だけが話した。わかりにくい名前の男は、ただ立っていた。そして頭を下げた。ほっそりとしていて神経質そうで、なじめない感じの男だ。議員は弁士でなければならぬ。遠慮などしていたら生きて行けない世界だ。お前は、この町で何がしたいのか、黙っていたらわからない。話を聞いて笑つたり、うなずいたりしているだけで何も言わない男に町は任せられない。その男はインパクトがなかつたので、すぐ名前を忘れた。

「今は、ママがお弁当を作つて、ママと『オウチご飯』をする男の人が多い」と娘が言った。「今は、女の時代です。男は全然だめです」と夫も言った。「なるほど」。

ある日、男は老人介護施設を辞めた。高校を卒業して専門学校で介護の資格を取得した。そし

て就職をしたが、オムツ交換は吐き気がした。洗ってくれと出された入歯はヌメヌメしていた。一週間に二回しか着替えないので、どの人からも老人特有の悪臭がした。男は食事が喉を通らなくなつた。入浴の介助は力仕事だ。各部屋や廊下の掃除、ささいな事でも苦情を言われる。毎日くたくたに疲れた。コンビニで、ビールを買うか、弁当を買うか迷つた。夏なのでビールを買つた。月末、家賃を払うと今月も残金はゼロに近かつた。貯金はできない。そもそもピンクのエプロンをして「すみません」と言いながら毎日仕事をしているのが最も苦痛だつた。一年後、男は施設を辞めた。

今度はマーケットの夜のアルバイトに転職した。男に自由がもどつた。収入も、それなりにあつたが、正社員ほどではなかつた。このまま年を取つても家庭を持つことはできそうもない状態だ。希望がないのは老人介護施設で働いていた時と、何も変わっていないなかつた。男には、明日が見えなかつた。次の一步の方向がわからなかつた。男は立ち尽くした。「これから、どう生きてらいいのか、明日はどっちだ」。

ある日、車のセールスマンが来た。それから何度も来るようになった。そして日曜日に来て草むしりを手伝つた。一日中手伝つた。父が言った。「よし、気に入つた。あんたのような青年は珍しい。あんたから車を買おう。こっちは、だから買つても同じだ」。父は、ホンダの軽自動車を買つたので、たいした儲けは無かつたと思うのだが。その後、彼は会社の売り上げナンバーワンの社員になり、重要ポストをまかさされた。正月に菓子折りを持つて挨拶に来た。「その後、乗り心地はいかがですか」と、にこやかに言つた。父は「いい青年だなあ」と大喜びだつた。

私は、宅配便の青年を高く評価している。「よく働くな、すごい」と思っている。「今どきの男」といっても、いろいろいる。共通しているのは、優しい所かな。

## 辻井伸行さんつじいのぶゆき

辻井伸行さんは、平成二十一年（二〇〇九年）、「ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール」で日本人として初優勝した盲目のピアニストです。彼がトルコのアンダルシヤの聴衆の前で『トルコ行進曲』を弾いた。ピアノソナタ第十一番イ長調（Klaversonate Nr.11 A - dur）K331は、モーツァルトが作曲した三楽章構成のピアノソナタ。第三楽章が有名な『トルコ行進曲』であるため、「トルコ行進曲付き」と呼ばれることがある。

楽譜の見えない彼は、努力の人です。それを人々は天才と呼ぶ。『トルコ行進曲』への取り組みは真剣だ。どのように演奏するか摸索する。彼の音楽は常に真剣。いつも頭の中で「楽譜を歌っている」。音楽以外の事は考えていない。彼は作曲もする。小鳥の声や自然の風景を音にする。美しいメロディーだ。私は辻井伸行さんの「音」のこれから期待する一人です。

平成二十五年（二〇一三年）二月二十七日、テキサス州の自宅でヴァン・クライバーンが亡くなった、七十八歳。最近骨がんの治療を受けていたという。この情報は、日本のマスコミではほとんど報道されなかった。私はマスコミのレベルの低さにあきれた。

◆ヴァン・クライバーンは、一九三四年、ルイジアナ州生まれ。ニューヨークのジュリアード音楽院で学んだ。



冷戦下の一九五八年、ソ連で開催された第一回チャイコフスキー国際コンクールで優勝。二〇〇三年に米文民最高位の勲章「大統領自由勲章」を、二〇〇四年にはロシアから友好勲章を受けた。一九六二年から「ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール」が開催されている。

だんい くま  
團伊玖磨さん

私は、音楽大学を卒業すると鎌倉の私立大学附属の中等部・高等部に音楽主任として就職した。ある日、團伊玖磨さんが講演に來られた。團さんは、この大学の近くに住んでいたことがあった。講演の最後に童謡『ぞうさん』を歌う事になった。團さんが伴奏をして、私がマイクを片手に「さあ、みなさん歌ってください」「暗い声だと、ぞうが、ますます重くなってしまう。お母さんと子どものぞうですから、明るい優しい声で歌ってください。では、もう一度」「そうです。なかなか、いいですね」と指導した。当時、二十代だった私は、恐いものなして團さんを伴奏者にして講堂いっぱいの子生、父兄、先生に『ぞうさん』を歌わせた。自分も歌った。いい気分だった。当然だが、「君、歌わせる前に発声練習をさせるべきでしたね」と言われる事はなかった。

終了後、職員室でサインをもらった。「随分、肩幅が広い男の人だな」という印象だった。それだけの感想だった。『花の街』の歌詞についてなど、もつといろいろ話せばよかったと今では後悔する事しきりです。亡くなってみると、ますます、もつたない事をしたと思います。

團伊玖磨さんは変わった人です。彼は郵便物を受け取ると、まず「團伊玖磨」と正確に書かれ

ているものと、そうでない物に分け、正確に書かれていない物は捨ててしまおう。「名前が正しく書かれていない物は、自分宛でないから」というのが理由。しかし、これには無理がある。「團伊玖磨」と正確に書ける人は少ないのではないだろうか。その都度、奥さんや秘書の人がゴミ箱から拾って事無きを得る。奥さんのファンである私は、この話を聞いて、もし本当に大事なものを捨ててしまったとしたら、どうするのだろうか、本気で心配をした。離婚した奥さんも再婚した奥さんも、秘書の人も大変だっただろうと思います。

世界的に有名になり、八丈島に仕事場として別荘を持っているような奥さんだから何でも捨ててしまえるのでしょうか。一円単位で生活しているような人だったらありえない事です。日本には「もったいない」という好い言葉がある。

團伊玖磨著エッセイ『パイプのけむり』は、昭和三十九年から毎週『アサヒグラフ』に掲載された。平成十二年に休刊するまで連載を続けた。一八四二回、三十六年間も書き続けた。最終回では「自分が死ぬのが先か雑誌が休刊するのが先か」どっちなのだろうと予想していたと書いている。結局、雑誌休刊の翌年亡くなった。『パイプのけむり』シリーズ（朝日新聞社）は全27巻。團伊玖磨さんは、平成十三年五月十七日、旅行先の中国・江蘇省蘇州市の病院で心不全のため亡くなった。享年七十七歳。パイプからはもう「けむり」は出ない。

## 山本直純さん

娘たちが小学生の頃、足柄上郡松田町の松田町民文化センターにオーケストラが来た。指揮者は山本直純さん。子どもを対象にしたコンサートだった。山本直純さんが曲の話をするというので娘たちを連れて聴きに行った。

会場に入ると、まだリハーサルをしていた。ステージから降りてきた山本直純さんが言った。「こりゃ、全然だめだな。ひどいな、このオケは。どうしたんだい。誰でもいいというものではない」。右側のステージ用階段のすぐ下の席にいた私は、「何の事？」と思った。リハーサルが終わってステージから団員がいなくなっても、まだクラリネットの人が一人残って練習をしていた。彼は、なかなかステージから去らなかつた。譜面にかじりついて懸命に練習をしていた。

演奏会が始まると、山本直純さんが言っていた事がわかつた。演奏中におかしな音がする。最初は何だろうと思つたが、トランペットやトロンボーン、クラリネットが「ピー」「キー」と音を外して悲鳴をあげているのだ。つまり、ヘタだつた。このような練習不足のオーケストラは聴いた事がない。子どもたちを見ると、椅子で遊び始めていた。キコキコキコ、バツタン、キヤーカー。それで帰る事にした。音楽会の途中で帰宅したのは、初めてだつた。

あのコンサートは何だつたのか、曲目も思い出せない。小編成のオーケストラだつたので、プロコフィエフ作曲の『ピーターと狼』だつたかもしれない。今となつてはオーケストラの名前もわかりません。音楽大学を卒業したのであろうオーケストラの楽団員や山本直純さんは、子どもた

ちから拍手をもらつて、はずかしくなかつたのでしようか。

二〇一五年四月十一日(土曜日)、夜九時半からEテレで『ららクラシック』を観た。今日はハチャトリアンの『剣の舞』。ハチャトリアンがピアノで『剣の舞』を弾いた。青少年向けのコンサートのようだ。みんなが目を輝かせて演奏に聴き入っている。すばらしい演奏は聴衆を圧倒するものです。

## 井上陽水さん

あなたは、「井上陽水この一曲」と言われたら、どの曲を選びますか。陽水の曲は、大きく分けて二つのグループに分けられる。

『夕立』「ト夕立 そこまで来ている 雷ゴロゴロ ピカピカ 情容赦ないみたいだ 誰もが一目散へと どこかへ走る カエルはうれしなきをしている」のように、胸のすくりズミカルな曲。『青空、ひとりきり』「♪楽しい事なら 何でもやりたい 笑える場所なら どこへでも行く 悲しい人とは 会いたくもない 涙の言葉で ぬれたくはない 青空 あの日の青空 ひとりきり」のような、泣きたいほどセンチメンタルな曲。いずれも、作詞・作曲・歌・井上陽水。

## 好きな陽水の歌

『枕詞』

「♪浅き夢

淡き恋

遠き道

青き空

今日をかけめぐるも

立ち止まるも

青き、青

き空の下の出来事」

『心もよう』「♪あざやか色の春はかげろう」こんな言葉が、どうして書けるのだろう。繊細で苦しい。繊細な歌は好きですか。

『太陽の町』「♪はてない空 かげりのない雲 季節の風 鳥はむかい風」

『ロンドン急行』「♪ブルーの色に白帯かけて」

『闇夜の国から』「♪波まかせ風まかせ 星くずの空に揺られ 一人の国から今夜 闇夜の国から二人 二人で舟を出してゆく」甘い声で陽水が歌う。星勝の編曲、手拍子が成功している。手拍子がなかったらどうですか。ほとんどの陽水の曲は、星勝が編曲を担当している。星勝は、音楽を知り尽くした人だ。まるでビートルズのアレンジをしていたジョージ・マーティンのようだ。ジョージ・マーティン（プロデューサー）なくして、ビートルズの曲はレコードにならなかった。彼は「五人目のビートルズ」と言われる。陽水世代の音楽家は、みんなビートルズの影響を受けている。

『青空、ひとりきり』「♪仲よしこよしは なんだかあやしい 夕焼け小焼けは それよりさみしい」星勝の編曲が優れている。転調が効果的。

『帰れない二人』「♪もう夢は急がされている もう星は帰ろうとしてる 帰れない二人を残して」作詞・作曲は井上陽水と忌野清志郎。編曲・星勝。忌野清志郎は、こんなにセンチメンタルな曲を残した。いつまでも抱きしめていたいほど、すばらしい。

『待ちぼうけ』「♪時計だけが僕を見てる 僕は窓の外を見てる」作詞・作曲は井上陽水と忌野

清志郎。編曲・星勝。井上陽水が高い声で歌い上げる、きれいな声だ。

『人生が二度あれば』「♪人生が二度あれば」言いたいことが溢れている。陽水は親孝行がしたかったのでしょうか。しかし、人生が二度あっても同じ事です。

『少年時代』「♪目が覚めて 夢のあと 長い影が夜に伸びて 星屑ほしこぼの空へ 夢はつまり 想い出のあとさき」休符、音のない部分も音楽。聴こえない音を聴いて胸が痛い。このアレンジは素晴らしい。歌と伴奏の呼吸がピッタリ合っている。録音は何度も何度もやり直したのでしよう。ヘンデル作曲の有名な大合唱『ハレルヤコーラス』にも最後に休符の部分がある。しかし、一度だけだ。『少年時代』には二回も休符がある。二回とも歌と伴奏が、あうんの呼吸だ。すばらしい。「♪夢はつまり」陽水は、理屈っぽい人です。二回目の「♪八月は夢花火」のフレーズが好きです。『荒ワシの歌』気が狂ったような歌だ。「♪E・A・G、L・E・S、YAHATA EAGLES」気に入っている。

『東へ西へ』「♪満開 花は満開 君はうれしさあまって気がふれる 空ではカラスも負けないくらいに喜んでいよ」陽水は、はしゃぐ君が好き。

『夏まつり』「♪十年はひと昔 暑い夏 おまつりはふた昔 セミの声 自転車のうしろには妹が ゆかた着てすましてる かわいいよ もらったおこづかいなくすなよ」陽水は、心が温かい人です。頼もしい人です。編曲も陽水。

『感謝知らずの女』「♪ありがとうと一言 なぜ いえないのかなあ」陽水は、心が広い人です。『御免』「♪あいにく家内は里へ帰っていて……家内が帰れば なんとかしますから 御免」

「家内と言うのは、石川セリのことかな」と夫が言った。私と井上陽水の奥さんの石川セリとは中学校の同級生だ。一緒に帰る私たちを見て、担任が不思議がった。「君たちは、なぜ一緒にいるんだ」と。石川セリは中学生の頃から目立っていた。特別すばらしい声ではなかったのに、歌手になったと聞いた時、不思議な感じだった。

一方、私は「覇気が無い」と担任から言われていた。私たちは、小田急線の下り電車に乗って帰宅していた。帰る方向が一緒だったただけだ。石川セリは、座間の米軍基地の方に住んでいた。私は玉川学園前駅と新松田駅を往復していた。車酔いが激しく、毎日、電車の中で吐いた。いつも頭がぼんやりしていて顔色が悪かった。うずくまって元気がない私に、だれも気がついていなかった。吐いた物が飛び散って、口や手足、衣服から酸っぱい悪臭がしていた。同級生から「やアーねエーッ」と声をかけられた。担任からも嫌がられた。楽しい事は一つもなかった。子どもの事を一番に考える教育という「全人教育」はウソだと思っていた。反抗期の真つただ中にいた暗く過ぎた中学時代は、だまって過ぎて行った。黄色いコスモスが咲く丘、見上げる空は、どこまでも青かったのに。もう、取り返しがつかない。

【むすびごと結詞】「♪迷い雲 白き夏 ひとり旅 永き冬 春を想い出すも 忘れるも 遠き、遠き道の途中での事」。

「井上陽水、いいですね」と、童謡の会員と酔いしれた夏があった。井上陽水の夏を共有して、私たちは満足だった。彼女は「先生に、このレコードをあげます」と言って大切なレコードを家まで持って来てくれた。ありがたく受け取った。先生にあげたい、という気持ち嬉しかった。

みやびやま  
雅山さん

平成の怪物と言われた雅山が引退した。初土俵から二年で大関に昇進した時、「雅山の母でございます」と挨拶した母親の記者会見が忘れられません。どんなに嬉しかった事でしょう。

しかし、ある時の取り組みでケガをした。土俵下に落ちた雅山は立ち上がれなかった。車椅子に乗せられて退場する雅山に対して、アナウンサーが「大きな車椅子ですね」と失礼な発言をした。休場後、復帰したが、もとの力は返って来なかった。きつと、腰か足を痛めた後遺症を引きずっていたのでしよう。

平成二十二年（二〇一〇年）には、相撲界を震撼させた大相撲野球賭博問題が発覚した。現役の力士、年寄などによる違法賭博への関与をめぐる問題だ。八百長の取り組みも問題になった。暴力団と関係を持ったとされる大関・琴光喜が解雇処分され、雅山の名前も上がった。「雅山、おまえもか」と思った。雅山は謹慎休場となった。この汚点は取り返しのつかない事になった。母親が生きていたら泣いて叱りつけたに違いない。

引退の記者会見をした雅山は、「もう一度大関に戻るつもりで頑張ったが、できなかった。特に最近では気力はあったが、体がついて行かなくて苦しい土俵だった」と涙ながらに語った。今場所には負けが続き、一勝した時は会場がどよめき、割れんばかりの拍手だった。情けなかった。千秋楽に勝ち、三勝十二敗で終わった。来場所の幕下落ちが決定的だった。

引退後は、年寄「二子山」を襲名。新たな道を歩む。



## 星の王子さま

わが家の庭にソフトバンク株式会社の鉄塔が建った。契約は二十年。門から電柱より長い鉄塔が運び込まれた。現場監督の男が挨拶に来た。社長さんが「働き盛りです」と紹介した。夫も珍しく「ご苦労様です」と挨拶した。好感度百パーセントの、さわやかな青年だ。話をしていると、青年の瞳に星があるのに気がついた。「星の王子さまだわ」と私は驚いた。

昔のぬり絵の少女たちの瞳の中には必ず星が描かれていた。母は小学校の教員で、塗絵を極端に嫌っていたので、私は買ってもらえなかった。友だちが持っている塗絵が欲しくてたまらなかった。「それ、ちょうだい」と言った事もある。母は形にはまった絵を塗るのではなく、自由に自分で描かせる事をモットーにしていた。みんなが持っている物が欲しいのだという娘の気持ちかわかっていなかった。

一ヶ月後、「今日で全部終了です」と星の王子さまが挨拶に来た。「門の所をきれいに修復してください、ありがとうございます。遅くまで仕事をして体が壊れてしまいますよ。強風の日には鉄塔の上に登った時、落ちないように十分注意してくださいね。どうぞ、お元気で」。私は、なごりおしくて、老人のような挨拶をした。すると「来月は宮城です」と言って深々と頭を下げ、赤いスポーツカーに乗って、さわやかに帰って行った。

星の王子さまが帰ってすぐ、夫に言った。「今日で、お終いだって。あなたも見たでしょう、現場監督さんの瞳に星があったわね。初めて見たわ。スマートで、眼がきれいな人だったわね」。

すると、夫が思いがけない事を言った。「彼は、コンタクトをしていたのさ。メガネをかけて鉄塔に登って作業をしていた時、ビュービュー強風が吹いたらどうなると思う」なるほど、そうだったのか。夫は私の夢を壊した。今頃、星の王子さまは宮城の鉄塔の上です。

## 消えた男

私は三歳から、毎週日曜日があると小田原にあるピアノ教室に通った。ピアノの先生の家の庭に男の子が遊んでいた。私のレッスンが終わると、「今の曲を、僕が弾くから聴いていて」と言って、私が練習している曲をスラスラ弾いた。そして、「君は手が小さいから右手のトリルは5 4 5 4の指より、5 3 5 3の指の方がいい」「君は手が小さいから肩がこるんだよ」と言った。そして「この曲は面白いよ」と知らない曲を次々弾いてくれた。男の子の手はグローブのように大きく、指は長く太くしなやかだった。

「楽譜を貸してあげよう」と誘われて男の子の家に行った。芝生の庭には、一匹の犬と一緒にアヒルが沢山いた。犬は犬小屋の上に避難していた。「アヒルは隣りにある小田原城の公園の池から飛んで来た」という説明だった。家にはグラランドピアノが二台とアップライトピアノが二台あった。グラランドピアノは向かい合わせになっていて連弾ができるようになっていた。日曜日なので父親、母親、弟がいた。みんなが、大きなグラスからストローでミカンジュースを飲んで、クラシックレコードを聴きながら、くつろいでいた。私の家では、ありえない事だ。夢のような

贅沢な暮らしが、そこにあった。このような生活が日本にあるのかと思つた。父親は貿易関係の仕事をしているようだった。男の子と、いろいろな曲を弾いて、いつまでも遊んだ。

男の子が言った。「僕は夏が好きだ」「私も」。「僕は青い空が好きだ」「私も」。そして、私はピアノを弾きながら育つた。ピアノの傍らに、いつも「ピアノを弾くのは楽しい」と教えてくれる男の子がいた。

五十年後のある日、雑誌の仕事の打ち合わせで大阪から男が来た。NHK大河ドラマ『平清盛』の藤原摂関家・右大臣「藤原兼実」（演：相島一之）のような男だ。男は、仕事とは関係ない短歌の話をした。しゃべりに関西人特有のバイタリティーな雰囲気があった。

大阪から来た男が言った。「僕は夏に強いんですよ」「僕は青い空が好きなんですよ」。「私もです」と言いながら、昔どこかで聞いた事がある言葉だなあと思つた。だれも知らない過去を探した。小さい頃の淡い思い出が、男がしゃべるたびに次々消えて行くのをはつきりと感じた。男だけが話し続けて、打ち合わせは延々と続いた。私は、ぼんやりと聞いた。小田原駅で男と別れた時、思い出は完全に消えていた。私は、もはや恋や愛とは縁遠い年齢になっているのを実感した。大好きだった「夏」と「青い空」が消えた日だった。

帰宅すると夫が「今日の打ち合わせはいかがでしたか、どのような話をしましたか」と聞いた。「別に」と答えると、大阪から来た男も消えた。全てが消えた。

## 仮設の天使

看護婦の黒田裕子さんは、阪神・淡路大震災をきっかけに二十年に渡り、東日本大震災など多様な被災地の課題に向き合い続け、平成二十六年（二〇一四年）九月二十四日に癌のため亡くなりました。

NHKスペシャル『被災者を支えて20年 黒田裕子病床からのメッセージ』は、平成二十七年（二〇一五年）一月三十日、夜十時から放送されました。私はこれを観て感動しました。三月一日、午前〇時五十分より再放送がありました。だれも観ないような時間帯に放送され、もったいないなあと思いました。

### 黒田裕子さんの言葉

「人生の旅の荷物は夢ひとつ」（被災して仮設住宅で生活する高齢者に残した黒田裕子の言葉）。この高齢者は「お守りです」と言って取材のカメラに向かってメッセージカードを見せた。それは、人間の欲への戒めであり、生きて何をすべきかを問うものです。

「ああ、生きていて好かったと思う日々が大切。人は生きて行かなければいけないのです」（癌患者としての黒田裕子の言葉）。

「最後の一人まで見捨ててはいけない。人間だから」（看護婦としての黒田裕子の言葉）。

## みつはしちかこさん

新聞を開いたとたん、「これは、私だ」と叫んだ。平成二十七年（二〇一五年）六月十七日の読売新聞には、日本漫画家協会賞と手塚治虫文化賞をダブル受賞の「みつはしちかこさん」七十四歳の写真があった。手には一枚の色紙。

### みつはしちかこさんの色紙

チツチが描いてある色紙、

「わたしは 希望 いつも あなたの 足もとに」。

チツチとサリーが描いてある色紙、

「そばにいるだけで そよ風のように わたしの心へ 通ってくる」。

昨年完結した漫画『小さな恋のものがたり』を半世紀にわたって描いた功績が認められた。主人公は背が低い事を気にしている少女チツチ。ハンサムなサリーを慕い、ときに空回りするいちな姿が読者の心をドキドキさせる。高校時代の漫画日記を基にしたものだという。一九六二年にデビュー。

「感受性豊かだった頃の思いや体験を、たたいたりのばしたり抱きしめたりして、漫画にしてみました」

「自分も含め、落ちこぼれが好き。野の花のような脇役を主人公に」との思いで描いた。

二〇〇八年に体調を崩し休止。夫を亡くし、心不全の後遺症による手の不自由にも苦しんだ。しかし、続きを待つ読者のために、と漫画用のペンを握りやすいサインペンに持ち替えて再開。四十三集で完結させた。

サリーは、スウェーデンに留学して物理を勉強する。飛行機は飛び立つ。チッチは、いつかあなたと出会ったときステキな大人になっているよう頑張る。

「あなたの 歩く道ばたの わたしは 小さな花に なりたい」と結んでいる。

## 聞き違いの人

聞き違いには、いつも驚かされます。

## 「あくまで」聞き違い

NHK大河ドラマ『平清盛』に登場する「宇治左大臣」といわれる藤原頼長ふじわらのちなが（演：山本耕史）は、平安時代末期の公卿（藤原撰関家）。苛烈で妥協を知らない性格により「悪左府」とも呼ばれた。後に後白河上皇（演：松田翔太）の信頼を失って失脚。政敵の美福門院、兄の藤原忠通、信西（演：阿部サダヲ）らに追い詰められ、崇徳上皇すとのじょうこう（演：井浦新）と結び「保元の乱」を起こし平清盛（演：松山ケンイチ）、源義朝（演：玉木宏）と戦い敗死した。官位は徒一位行左大臣、贈正一位太政大臣。

男色など当時の風俗を記した日記『台記』でも有名。

どの役者もドラマの中では藤原頼長に対して「あくさく」と発音していたので、「はて？」と思っ  
て見ていた。どうもおかしい。ついには、確認のため再放送も観た。

平成二十四年（二〇一二年）六月三日、第二十二回「勝利の代償」放送で藤原頼長が死んだ。  
最後に「悪左府（あくさふ）」の説明があった。今度は「あくさふ」と意識して聞くと、どの役  
者も「あくさふ」と発音していた。私の聞き間違いだった。

### 「しいたけ」聞き違い

ロンドンオリンピック体操女子の演技を観ていて驚いた。アナウンサーが「今の、しいたけの  
演技、いかがですか」と言った。すると解説者も、「しいたけが、大きなミスなくまとめました。  
ここまで、なかなかいいですねえ」「しいたけの演技を終わって、日本は良い位置につけています」。  
「しいたけ、しいたけ」と言っている。「何か変だぞ、しいたけが演技をしているのかな」。

字幕を見て納得した。大阪府出身の体操選手「新竹優子」だった。「新竹（しんたけ）」が、「椎  
茸（しいたけ）」と聞こえた。

◆新竹優子は、北京オリンピックにも出場しているが、印象に残っていない。現在、羽衣国際大学スポー  
ツライフコース三回生。羽衣体操クラブ所属。身長一五三センチ。体重四十キロ。

## 「たからくじ」聞き違ひ

テレビで相撲を観戦していて驚いた。「たからくじが勝ちました」とアナウンサーが言った。「何か変だな、エッ、たからくじ。たからくじが相撲をとっているのか。たからくじって何だろう。たからくじという力士が登場したのか。しこ名にしては変だぞ」と思った。私は、自分の耳がおかしくなつたのかと疑つた。

その力士は西前頭十枚目の宝富士大輔だった。しこ名が「宝富士（たからふじ）」だから、「宝くじ」と聞こえた。

ついに、伊勢ヶ濱部屋の日馬富士が念願の横綱になった。土俵入りの時、露払い（先導を務める力士）は宝富士だった。太刀持ちは安美錦。テレビに向かつて「いぞ宝富士」「あみ君も頑張れ」と声をかけた。

◆宝富士は、青森県北津軽郡出身、伊勢ヶ濱部屋。身長百八十四センチ、体重百五十六キロ（平成二十四年七月場所情報による）。これからの相撲に期待したい。

## 出合い

私は、ピアノ教室の先生をしていた。申し込みに来る生徒と母親と話しをしている時、何気なく指の爪を見る。子どもはもちろんだが、引率の母親の爪を見る。普通は、きちんと爪が切つてあるが、時々「これで、おにぎりを作るの？」というような、爪が伸びていて汚い手の人もいる。



それで「情操教育のためにピアノを習わせたいと思います」などと言われると、あきれた。

今は、童謡を歌う会を主宰している。だれでも年齢と声は、ほぼ一致している。高齢の人は洪い声だ。若い人は明るい。たまに、高齢なのに子どものようなキーキー声の人もいるが、ほとんどの人は、顔のしわと声が一致している。「声が出ません」などとやって来る人があるが、「その声は、顔と合っているのに、何が不満なのかな」と思う。

洋服のリフォームを職業にしている人と友だちになった。私は洋裁、和裁、編物が少しできるので、話しが合い仲よしになった。話していると、相手が私の服装をチェックしながら話しているのがわかった。そして、「今どきスーツをきちんと着ているのは珍しいわね」と言った。私は、ワンピーススーツを着ていた。これは、童謡の会を指導する時の勝負服だ。しかし、ずっと同じパターンの服を着ている。つまり古い。職業柄、よく見ぬいている。

美容院に髪をカットしに行った。「このようにカットしてください」と写真を見せた。すると、「横は耳を出して、後ろは長め、この写真は、いつ頃の写真ですか?」と言われた。「もう、十年ぐらい前のです。よくわかりますね。やはり、わかりますよね」と、なった。

美容師さんが、「最近では、ピアノの音を聴かなくなったわね。子どもがピアノを習っていないのかしら、昔は、どこの家からもピアノの音がしたわよね」と話し出したので、私は慌てた。私がピアノ教室の先生だったという事など知らないはずなのにと思った。

さらに、「新松田駅前の病院の看板が、外科から内科になっていきますね」と言うと、美容師さんが「ああ、先生が癌で亡くなったのよ。もう二年ぐらい前よ。癌とわかってから、すぐ亡くなっ

てしまったらしい。無口だけど、いい先生だったわ。今は息子さんがやっているのかしら」と言った。私は驚いて声が出なかった。この外科の先生には母が犬に手を噛まれた時、お世話になったので、会って一言お礼を言いたいと思っていたからだ。まさか亡くなっているとは。思いがけない事だった。

## 平清盛

今年、平成二十四年（二〇二二年）のNHK大河ドラマは『平清盛』です。

### 第一回「ふたりの父」一月八日放送

始まるとすぐに清盛の祖父で、平家初代統領の平正盛（演：中村敦夫）が出た。迫力ある盗賊退治の場面や、ススキケ原での赤ん坊を抱いた平忠盛（演：中井貴一）と馬に乗った正盛の出会いが美しかった。ススキケ原ロケ地・砥峰高原（兵庫県神崎郡神河町川上）での撮影は、平成二十三年九月六日と九月二十七日に行われた。

最近は、撮影に使える馬がないので、脚本家は、「馬」と書いたらいけないのだそうです。お金がかかる。しかし、この場面、正盛が馬に乗っていきなかつたらどうでしょう。威厳がありません。正盛は「赤ん坊は平家の災いになるから殺せ」と言います。この赤ん坊が後の平清盛（演：松山ケンイチ）です。実際は、白河法皇（演：伊東四朗）と白拍子・舞子（演：吹石一恵）との

間にできた子でした。忠盛と、忠盛が助けた舞子との二人の幸せは長くは続かなかった。舞子は源為義に捕まり、白河法皇のもとに引き出され、護衛の弓矢で命を落とした。

白河法皇の寵妃である祇園女御の乙前（演・松田聖子）が歌う今様がテーマ曲になっている。歌手の松田聖子によれば、歌いまわしが難しかったそうです。その後、この歌は編曲されドラマの中で、時としては泣かせ、喜びを表現し、ある時は不気味に、楽しませてくれる。清々しい美しいメロデーです。

遊びをせんとや生れけむ 戯れせんとや生れけむ

遊ぶ子供の声きけば 我が身さえこそ動がるれ。

『梁塵秘抄』第二卷 四句神歌

大意「遊ぶために生まれて来たのだろうか。戯れるために生まれて来たのだろうか。遊んでいる子供の声を聞いてみると、感動のために私の身体さえも動いてしまう」。

『梁塵秘抄』は、平安時代末期に編まれた歌謡集。京都の庶民を中心に流行した今様という歌謡の集成。編者は後白河法皇。治承年間（一一八〇年前後）の作。書名の「梁塵」は、名人の歌によって「梁」の上の「塵」が舞い上がり、三日間落ちなかつたという故事から名付けられたといわれる。すぐれた歌のこと。多くの歌が七・五調四句や、八・五調四句、あるいはそのバリエー

シヨンの調子を持つ。しかし五・七・五・七・七の調子もあり、歌の形態は様々である。

冒頭の力強いテーマ曲の演奏は、オーケストラと左手のピアニスト館野泉さん。

◆館野泉は、一九三六年東京生まれ。一九六〇年東京芸術大学首席卒業。一九六四年よりヘルシンキ在住。一九六八年、メシアンコンクール第二位。演奏会は世界各地で三千五百回以上、リリースされたCD・LPは百三十枚にのぼる。人間味溢れ、豊かな叙情性をたたえる演奏は世界中の聴衆から熱い支持を得る。二〇〇二年脳溢血（脳出血）により右半身不随となるが、二〇〇四年「左手のピアニスト」として復帰した。復帰後の演奏について、かつて大活躍をしていた館野泉を知るファンが沈黙しているのが気になっています。私も、その一人です。

ところで、私は中村敦夫の久々の時代劇の出演に期待した。あのテレビ時代劇『木枯し紋次郎』を思い描いて期待した。しかし、中村敦夫は今年七十二歳になっていた。あれだけハンサムだった三十二歳の「木枯し紋次郎」役の中村敦夫も、年を取っていた。私の期待は裏切られた。そのがっかりは半端ではなかった。肩を落とし、翌日は言葉がなかった。うつむいて、うずくまる私を見た夫が、「中井貴一の父親役だったのですから、よかったじゃないですか」と言ってくれたが、それは慰めになっていなかった。心の中にぽっかりと穴が空いた。夫が、「よく穴の空く人ですねえ、穴だらけですね」と言って笑った。

中村敦夫は、その著『俳優人生 振り返る日々』（朝日新聞社）の中で「俳優は年とともに適当に老いてゆかぬと、次第に役柄がなくなる」と書いているが、平家初代統領の平正盛は、第一

話で死んだ。期待した中村敦夫の出演は一回で終わった。中村敦夫には、ハワイ大学留学やカリフォルニア州バークレー市での若き日の経験を活かして、英語の台詞のあるドラマに出演してほしいと思った。

後日、第一話を観たある議員が、「汚らしいドラマだ」と言ったので、問題になったらしい。この議員には時代劇を観る資格がない。主役と相對する役者二人が、斬り合ったり、抱き合ったり、話したりする山場を美しく見せるのが時代劇の醍醐味だ。第一話の場合は、まさしくスキケ原での赤ん坊を抱いた平忠盛と、馬に乗った平正盛の出合いの場面がそれです。美しいシーンでした。

「汚い」と言った議員を笑う事はできない。たとえば、勝新太郎主演の『座頭市』シリーズは、奥様方に人気が無い。暗い、汚い、貧しい話だからです。しかし、川原や田圃での斬り合いでは、決まって雲一つない青空の場合がほとんどです。それは、座頭市の純真な心を表現しているのだそうです。かがみこんで斬り合うシーンでは、空を入れるには、カメラマンは、もっとかがんで下から撮影する必要があります。これは大変な事です。さらに、晴天（業界用語では「ピーカン」と言うらしい）の日を待たなければ撮影できない。待ち時間にも飲食代、宿泊代がかかる。勝新太郎が亡くなると、勝プロは大きな借金を抱えていた。妻の中村玉緒さんが、働いて全て返金した。『座頭市』シリーズにも美しい場面が随所にある。三味線を弾きながら「都々逸」を歌う座頭市も見所です。私は、時代劇の熱心なファンです。

## 第十回「義清散る」三月十一日放送

第一話しか観ていない夫が途中で「登場人物が、ごちゃごちゃして、何が何だかわからない。あなたは、わかっていますか」と言った。

朝廷一族、藤原摂関家、新興貴族、それを警護する武士の平家、ねたむ源氏。若手からベテランまで人気の俳優が勢ぞろいだ。みんなハンサムでカッコいい。それに、女が絡む。

夫は、鳥羽法皇（演…三上博史）が水仙を見に行く場面では、「水仙は、僕たち大井町の町の花ですね」などと、とんでもない事も言つて、楽しく観ている私の邪魔ばかりした。

この日の主人公の佐藤義清（演…藤木直人）は、すぐれた歌詠みで、武芸にたけ、平清盛（演…松山ケンイチ）の親友だった。女たちに人気があった。鳥羽法皇の妻、待賢門院の璋子（演…壇れい）を愛してしまう。「本当の愛を教えてさしあげる。待賢門院様を御救いできるのは自分だけ」と思ふ上がる。義清には妻子があった。清盛が再三止めたが、すぐに発覚してしまう。しかし、鳥羽法皇はとがめなかった。それは、鳥羽法皇と璋子の仲が、暗黙の中、つながっている事の証だった。憎しみ合っているが愛し合っている。一緒にテレビを観ていた夫が、「恋は複雑ですなあ。難しいですね、わからないものです」と、しみじみと言った。

鳥羽法皇がとがめなかったので、賢い義清は全てを悟った。放心状態で家に帰ると桜の花びらを手渡す幼子を足で蹴る。出家をすと言ひ出し、わがままし放題な義清に対し、清盛の怒りが爆発する。清盛にさんざん殴られた。あまりの殴られように、夫が「あんなに殴らなくてもいいのね。ハンサムな俳優さんの顔が、だいなしになってしまう」と心配した。私も。

義清は、「いまは、これまで」と髪を切り、出家して西行さいぎやうとなつた。西行は桜を愛し、桜を植え、桜の歌を詠み続けた。

私は怒つた。自分の幼子を足で蹴つた事に怒つた。月曜日は自宅で一日中怒り、火曜日の小田原の「童謡を歌う会赤い鳥」では「西行法師、許すまじ」と爆発した。物語だとわかっていたのに怒りまくつた。腹が立ってしかたがなかつた。童謡の会は、いつも以上に爆笑となつた。『平清盛』を観ていない人も笑つた。それから、みんなで厳かに『さくらさくら』を歌つた。

## 第二十七回「宿命の対決」七月八日放送

「平治の乱」、平家と源氏の戦いが始まつた。しばらくすると、画面が切り替わり、平清盛と源氏の嫡男・源義朝よじともの一騎打ちの戦いが繰り広げられた。私は画面に釘付けになつた。真剣に観ていた。すると、夫が「ここからは創作ですね」と平気で言つた。一対一の戦いの場面は特に美しかった。源義朝が負けた。

源義朝の役の玉木宏がNHK『スタジオパークからこんにちは』に出演した。アナウンサーが「長い出演でしたが、何か工夫をしていましたか」と聞いた。すると「義朝の生涯は、あまり知られていません。ですから本を読んで勉強をしました。詳しくわかっていないので、逆に自由に演じる事ができました。若い頃の役は、高い声で演じ、源氏の頭領になつてからは低い声で演じるように心がけた。もちろんヒゲを付けましたが」と言つた。

私たちも、張りのある声で元気に歌つて生きて行きたいものです。